自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホーム敷島荘**　〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関など目につく場所に理念をかかげ、職員一人ひとりが理念に沿ったケア、取り組みが行えるよう心掛けている。	法人全体の理念は、玄関や事務室、休憩室等に掲示し常に意識できるようにしている。事業所独自の理念として「もう一つの家族」を合言葉に朝礼やミーテイングの際に職員間で共有し日々のケアの場面に反映されるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りに参加したり、清掃活動を行うことで地域の一員として社会参加している。また施設の行事には地域の方々に声をかけ参加して頂いている。 地域のボランティアの出入りも増えてきている。	事業所近くのロータリーの周辺の掃除を手伝ったり地域の夏祭りに参加したり、事業所の行事には地域で活動しているオカリナの会や踊りのグループ、保育園児が来て行事を盛り上げてくれるなど地域との関係が築かれている。また、家族や近所の方から野菜の差し入れや雪が降った時等の除雪の支援が行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	基本理念にある“高齢者の幸福のためのサービス提供と地域社会への貢献”を常に念頭に置き、日々取り組んでいる。また運営推進会議やオンブズマン委員会など地域の方々に情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催し、日々の利用者の様子や利用状況などを報告することでグループホームでの生活の様子を理解して頂いている。また会議の中でいろいろなご意見を頂き、グループホームのサービスや運営の向上に努めている。	奇数月の月末に開催し、主に事業所での日頃の様子を報告したり、地域行事等の情報交換をしている。最近の会議では自治会長から認知症について知ることが出来て良かった等の意見が出たり、家族の代表からは前庭に隣接する畑の除草について要望があり、対応することができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所は市の各種委員会の委員を引き受けたりし、情報交換を行っている。また市主催の交流会や研修会に参加し、情報共有や情報交換の場としている。	市の福祉関係の各種委員会の役員を受けて職員とも会う機会が多くその都度情報交換を行なっている。介護認定の更新の機会に市の担当者とは利用者の暮らしぶりや新規での入居希望者の情報などの相談を随時行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所では“脱身体拘束宣言”を掲げており、身体拘束ゼロに取り組んでいる。また委員会や研修で身体拘束について考え、検討し、理解を深めている。	法人全体で身体拘束ゼロに取り組んでおり定期的に研修会を行ない職員の意識を高めている。事業所では毎月15日の午後1時間を目安に職員会議を実施し、ヒヤリハットや感染症予防、身体拘束防止等の研修を行い、スピーチロックに関しては言葉のかけ方の工夫を行ない職員間でも注意し合い、防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	委員会や研修で虐待について考え、検討し、理解を深めている。また利用者の状態観察をしっかり行い、虐待の早期発見に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に利用者の中に成年後見人制度を利用している方もいたので、職員はこれについて学び、理解を深めている。また必要であればこれらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には利用者や家族と十分な話し合いを行い、疑問点や不安なことについてはしっかりと対応し、理解、納得に努めている。特に重要なことについては繰り返し説明し、家族の理解を得ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム敷島荘

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談申し出窓口設置の案内を掲示し、周知している。また苦情箱も設置し、いつでも意見できる環境を整備している。オンブズマン制度、介護相談員も利用し、利用者の声が反映できるようにしている。利用者の家族による家族会もあり、定期的に会合を開催し、意見交換ができる場を設けている。	苦情箱等の設置や家族が面会に来た時には気が付いたことなど何でも言えるような雰囲気づくりに努めている。介護相談員が年に数回来て利用者と世間話をしながら、利用者の困り事や要望等を聞いており、生活に反映できるようにしている。家族や利用者からは楽しく生活が出来ているという言葉が聞かれている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を行い、その中で意見や提案を出してもらい検討、反映させている。また意見や提案の出しやすい環境作りに努めている。また人事考課を行い、直接意見の言える場を設けている。	法人の荘長とは年に1回ヒヤリングがあり要望、意見を聞いてもらえる機会がある。事業所では月の15日に会議があり事業所の改善点等の意見を出し合い、今回は安全面からの配慮もあり、キッチンの改修をし、使い勝手がよくきれいになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、各職員の意見や考えを伝える場を設けている。その際自分の思いを伝え、できるだけ尊重できるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年新任研修を開催し、職員の質の向上に努めている。また法人内外の研修にも積極的に参加し、より良いケアにつながるよう努力している。資格取得についても進んで取得できる環境を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会などに参加し、意見、情報交換を行っている。また山梨県グループホーム協会にも入会し、役員を引き受け、ネットワークを広げサービスの質の向上に努めている。また同法人内にもグループホームがあるので、情報交換を行い、切磋琢磨している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人の意見の言いやすい環境づくりを心掛け、できるだけ多くの情報を収集する努力をしている。またちょっとした仕草にも注意を払い、その中からも情報を得られるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に細かなところまで情報収集し、よいケアにつながるよう努めている。また信頼関係が早く築けるよう積極的に関わる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、関係者でよく話し合いを行い、本人に一番適している支援が提供できるよう努めている。また併設施設も備えている特性を生かした対応もできるので、それらも含め最後までしっかり対応するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場になって考え、それぞれのペースに合わせた支援を行うよう心掛けている。またできるだけ多く触れ合う時間を設け、信頼関係を築けるよう努力している。共に暮らす家族だと思い日々生活している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム敷島荘

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに積極的に声をかけ、情報交換を行い、信頼関係を築いていく努力をしている。またその中で意見、要望をくみ取り、ケアに反映していけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂ける環境を提供し、できる限り希望する場所へ行けるよう支援している。時に電話があった際には本人と代わって話をして頂いている。	法人が行っているデイサービスに利用者の旧友が来ているので会いに行ったり友達が来たりする、今年の初詣に出かけたとき回り道をして利用者の家を見に行ったり、家族に電話を掛ける際は利用者に電話を替わり、家族と話をする機会をつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場なので利用者同士の関係をしっかり把握し、時には職員が間に入り、皆が穏やかに過ごせる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に移られるケースも多く、利用者や家族とも顔を合わす機会があり、これまでの関係性を維持している。退所する場合はその後の支援についてもしっかり話し合いを行い、最後までしっかりフォローするよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけコミュニケーション、スキンシップを図り、その中より一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握する努力をしている。またその希望や意向に沿ったケアプランを作成するよう心掛けている。	コミュニケーションがとりにくい利用者には日頃から観察を密に行い何気ない動作や短い言葉を聞き逃すことなく情報を得るようにしている。利用者にとって、何かやりたいことはないのか、食べたい物はないのか等その人にとってどのように暮らすことが良いのか家族を交え常に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネよりできる限りの情報収集を行い、生活歴や趣味などの把握に努めている。また日々の会話の中からも情報を仕入れ、日々の生活の中で活かせるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中より個々の有する力を把握し、一人ひとりに合った支援を行っている。また個々の生活ペースを大切にしながらも共同生活が行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえケアプランに盛り込んでいる。また関係職員からの情報なども常に収集し、ケアプランに反映できるよう努めている。モニタリングも3ヶ月ごとに行っており、現状把握に努めている。	利用者や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き利用者主体の介護計画になるよう心掛けている。3か月ごとにモニタリングし、職員全員で見直しを行なっている。変化があった時はその都度モニタリングやカンファレンスを行なって計画作成を行ない、変わりがなければ継続となり家族に確認してもらう。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や気付きなどは毎日個人ケースに記入し、職員間の情報共有に努めている。検討内容があれば随時または職員会議の中で検討し、統一したケアが行えるよう努めている。また連絡帳を活用し、職員間の情報共有、周知を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム敷島荘

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅の認知症の方の家族の介護負担を軽減するために共用型デイサービス（定員3名）、空床利用型ショートステイ（定員1名）が利用できる体制を整えている。また併設施設があるため連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアが来荘され、楽しいひと時を過ごしている。ボランティアも少しづつ増えてきており、いろいろなことを楽しめるようになってきている。また、地域の夏祭りにも毎年参加し、地域の一員として考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で今までのかかりつけ医か施設の嘱託医かを選択している。どちらにしても情報共有がしっかりできるよう努めている。現在は今までのかかりつけ医が多数を占めており、様子や状況がしっかり伝わるよう努力している。	入居者9人中7人は以前からのかかりつけ医に受診している。受診は家族が対応しているので日頃の様子は口頭もしくは書面にて情報提供を行ない受診後は結果を伝えてもらう。受診時の状態で職員が同行することもある。2人の方は事業所の嘱託医の往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックで状態確認を行い、利用者の変化に気付くよう状態観察を行っている。変化があった時には併設施設の看護師に協力を依頼し、適切な指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に面会に行き、情報収集に努めている。また家族や病院に定期的に連絡し、情報交換を行い、双方の希望もできるだけ伝えることでよい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から家族等との話し合いの場を設け、できる限り家族の負担が大きくならないよう法人全体で支援するよう努めている。またできる限り家族の希望に添った対応ができるよう柔軟に対応している。	入居の際に重度化した時の対応は、事業所として何をどこまで出来るか説明し納得の上で方向性を検討している。事業所で最期まで看てもらいたいという希望や重度化して医療面のサポートが必要になる場合等利用者と家族の意向に添えることを今後の検討課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には併設施設の看護師に協力頂き、連携、対応している。また全職員が救命救急法の受講をしており、利用者の急変時の対応に備えている。急変時の職員の連携体制も確認ができている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をしており、災害時の対応に備えている。また地震、火災、夜間などを想定した訓練も行っている。また地域住民が参加している会議などでは、随時地域の方々にも協力を呼びかけている。	法人全体で地震や火災の避難訓練を年間2～3回実施している。夜間想定の訓練も行ない、マニュアルに沿って初期消火から避難誘導までそれぞれの職員が主になって体験している。防災用品も準備され食料の備蓄は法人全体で3日分確保してある。施設が地域の避難場所となっており停電の時は自家発電機も用意してある。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気の中でも、人生の先輩として尊重し、言葉遣いや対応に注意している。	本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。プライバシーに配慮し、親しい関係の中でも個々を尊重した言葉かけに注意している。日々の記録の方法に配慮し、個人の台帳等は事務所に保管している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム敷島荘

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いをいつでも自由に言うことができる雰囲気作りを心掛けている。また利用者の自己決定ができるような声かけも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活が送れるよう努めている。また利用者の中でもいくつかのグループに分け、その人に合った対応、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヵ月に1回施設にカットに来て頂き、週1回整容の日を設け、爪切りや髭剃り、耳かきなどを行い身だしなみを整えている。入浴時には利用者とともに服を選びおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時や年1回嗜好調査を行い、利用者の好みの物を取り入れるよう心掛けている。また日々の会話の中にも注意して情報収集する努力もしている。食事の準備や片付けもできることは一緒に行うよう心掛けている。月に1回バイキングがあり、いつもと異なる場所で違った雰囲気の中で食事を楽しんで頂いている。旬の野菜などを頂くことも多い為、急遽メニューを変更して対応し、その時期の美味しい食材を頂き楽しんでいる。	季節の野菜を使い利用者と一緒に考えた献立で職員が主になって食材の買い物や調理を行なっている。利用者が買い物に同行したり、座って出来る野菜の下ごしらえや配膳下膳など出来ることは職員と一緒に行なっている。出来上がった食事は職員も一緒に同じフロアで食べている。月に1回法人内のデイサービスで行われるバイキングを食べに行くのが楽しみになっている。行事やイベントに外食の機会をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の指導の下、職員が献立を作成している。手作りにこだわり、季節の食材を取り入れたりしている。摂取量の確認や声かけを行い、1日トータルで必要な摂取量が確保できるよう支援している。また個々の状態を把握し、量や盛りつけなどを工夫して食べやすいよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前食後のうがいを徹底している。毎食後義歯の洗浄、残歯がある方は歯磨きも声かけにて行い、できない部分は介助している。また週1回入れ歯洗浄剤にて消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立している方は維持していけるよう支援している。トイレの訴えがあればその都度トイレ誘導を行っている方や定時のトイレ誘導を行っている方もいるが、利用者の行動や様子をしっかり観察し、排泄パターンの把握に努めている。トイレに座り、トイレで排泄できるよう促している。	排泄チェック表を付けて利用者に合わせた排泄支援が行なわれている、全員がトイレでの排泄が可能になっている。夜間はポータブルトイレを使う方や尿瓶を使ったりパットを使ったりする方がいるが、できるだけトイレに座って排泄を行なう事を目標としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり取るよう声かけ、ヨーグルトやヤクルトなどの乳製品や食物繊維が多く含まれている食材を取り入れ、適度な運動も行うことで排泄を促している。排泄チェックで排便の確認をすることで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月～土が入浴日になっており、その日の状態や様子でいつでも、誰でも入浴できるよう対応している。また安全に配慮し、個々のペースで入浴を楽しんで頂いている。	月～土曜日の午前を入浴時間とし最低でも週2回は入浴をしている。シャンプーやボディーソープは事業所で用意した物を使っているがスキンケア用品等は個人の物を使用している。冬は乾燥予防のためにベビーオイルを使っている。利用者が入浴を拒むことはほとんどみられず、楽しんでいる。	

自己評価および外部評価結果

事業所名：**グループホーム敷島荘**

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価（実践状況） ユニット名（　　）	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に休憩をとって頂いたり、休憩をとらない方はホールで過ごしていただいたりと個々の生活習慣に合わせ快適に過ごして頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をファイルに綴り、いつでも職員が確認できるようにしている。薬の変更があった時には随時連絡帳を活用し、全職員に周知している。薬は命に関わるものなのでしっかり確認し、確実に服用できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や家族などからの情報を参考に、できること、好きなことを行える環境を提供している。調理、清掃、洗濯たたみなど日々の生活の中の役割、習字、華道、工作など楽しみ事を行うことで充実した日々が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭を散歩したり、買い物に同行したりと日常的に外出できる機会を設けている。また季節ごとのイベントを計画し、外出することで季節感を感じて頂いている。	事業所周辺は坂道になっているので中庭の散歩を行なっている。前庭の見晴らしが良く、さえぎる物がないので日光浴も最適である。外出を希望する人は食材の買い物に同行している。何か買いたい物があれば職員に頼んで買ってきてもらうこともある。全員での外出は季節の花見、いちご狩りなどで他は小グループに分かれて気分転換の外出を希望に沿って行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に好きなものを買ったり、食べたりと買い物を楽しんでいる。また時には利用者からの依頼で職員が購入してくることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などとの電話や手紙のやり取りの支援を行っている。電話の取りつぎや手紙の返事など職員が協力し、関係を断たないよう心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、日当たりのよいホールは、利用者の憩いの場となっている。テレビを見たり、会話を楽しんだり、レクリエーションを行ったりなどそれぞれ心地よく過ごされている。またテーブル、ソファーと自由に活用している。ホールの見えるところに利用者の作品を飾り、さらなる意欲につながるよう努めている。	フロアの天井は吹き抜けになっていて窓は大きい。広々としているが日当たりがよく床暖房になっているため暖かい。ソファやテレビが設置され壁には共同制作の作品や習字が飾られている。昼食後は自室に入って昼休みをとられる方もいるがほとんどの方はフロアでゆったりすごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファーがあるのでそれぞれ思い思いに活用し、過ごされている。時には利用者の居室に入り、会話を楽しんでいる姿も見受けられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で愛用していた愛着のあるものなどを持ち込んで頂き、できるだけ以前と変わらない環境の下で居心地良く過ごして頂けるよう心掛けている。	居室は畳敷き（一部床しき）でベット、エアコン、カーテンは設置されている。自宅から使い慣れたタンスや仏壇、テレビなどが持ち込まれ、それぞれの部屋にクローゼットが付いているのでどこの部屋もきれいに片付いている。部屋の掃除は朝夕２回行なっていてフロアは食後その都度掃除を行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールを中心に居室、トイレ、浴室などが配置されており、利用者一人ひとりが安心、安全に生活が送れるようになっている。		